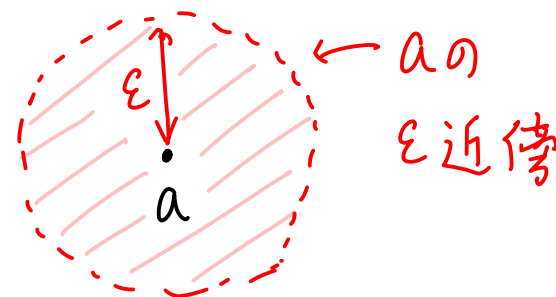


**$\varepsilon$ 近傍系**  $(X, d_X), (Y, d_Y)$  は距離空間であると仮定する,

$a \in X$  と  $\varepsilon > 0$  に対して,

$$U_\varepsilon(a) = U_\varepsilon^X(a) = \{x \in X \mid d_X(x, a) < \varepsilon\}$$

を  $a$  の  $X$  における  $\varepsilon$ 近傍 ( $\varepsilon$ -neighborhood) と呼ぶ.



$\{U_\varepsilon(a) \mid \varepsilon > 0\}$  を点  $a$  の  $\varepsilon$ 近傍系 (system of  $\varepsilon$ -neighborhoods of  $a$ ) と呼ぶ.

距離空間における点列の収束や写像の連続性は,  
距離関数を直接的に使わずに,  
 $\varepsilon$ 近傍系の言葉だけを使って言い直すことができる.

**注意** これから, このパターンをくりかえす.

距離空間の概念もすでにかなり抽象化されているが,

応用先を増やすためにさらに進んだ"抽象化"を行う.  $\square$

点列の収束  $X$ 内の点列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  と点  $\alpha \in X$  について,

(1)  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  は  $\alpha$  に収束する

$\stackrel{\text{def.}}{\Leftrightarrow}$  任意の  $\varepsilon > 0$  に対して, ある  $N$  が存在して,  $n \geq N$  ならば  $d_X(a_n, \alpha) < \varepsilon$ .

$\Leftrightarrow$  点  $\alpha$  の任意の  $\varepsilon$  近傍  $U_\varepsilon(\alpha)$  に対して, ある  $N$  が存在して,  $\{a_n\}_{n=N}^{\infty} \subset U_\varepsilon(\alpha)$

$\Leftrightarrow \begin{cases} \text{点 } \alpha \text{ の任意の } \varepsilon \text{ 近傍 } U_\varepsilon(\alpha) \text{ に対して,} \\ U_\varepsilon(\alpha) \text{ に含まれない } a_n \text{ は 有限個 しかない,} \end{cases}$  直観的にも  
わかりやすくなっている!

(2)  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  は  $\alpha$  に収束しない

$\stackrel{\text{def.}}{\Leftrightarrow}$  ある  $\varepsilon > 0$  が存在して, 任意の  $N$  に対して, ある  $n \geq N$  で  $d_X(a_n, \alpha) \geq \varepsilon$  をみたすものが存在する.

$\Leftrightarrow$  点  $\alpha$  のある  $\varepsilon$  近傍  $U_\varepsilon(\alpha)$  が存在して, 任意の  $N$  に対して  $\{a_n\}_{n=N}^{\infty} \not\subset U_\varepsilon(\alpha)$

$\Leftrightarrow \begin{cases} \text{点 } \alpha \text{ のある } \varepsilon \text{ 近傍 } U_\varepsilon(\alpha) \text{ が存在して,} \\ U_\varepsilon(\alpha) \text{ に含まれない } a_n \text{ は 無限個 ある.} \end{cases}$

## 写像の連続性 $f: X \rightarrow Y$ について,

(1)  $f$  は連続である

$\stackrel{\text{def.}}{\Leftrightarrow} \left\{ \begin{array}{l} \text{任意の } a \in X \text{ と任意の } \varepsilon > 0 \text{ に対して,} \\ \text{ある } \delta > 0 \text{ が存在して, } x \in X \text{ かつ } d_X(x, a) < \delta \text{ ならば } d_Y(f(x), f(a)) < \varepsilon. \end{array} \right.$

$\Leftrightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{任意の } a \in X \text{ と } f(a) \text{ の任意の } \varepsilon \text{ 近傍 } U_\varepsilon^Y(f(a)) \text{ に対して,} \\ \text{a のある } \delta \text{ 近傍 } U_\delta^X(a) \text{ が存在して, } f(U_\delta^X(a)) \subset U_\varepsilon^Y(f(a)), \\ (\delta > 0) \end{array} \right.$

(2)  $f$  は連続でない

$\stackrel{\text{def.}}{\Leftrightarrow} \left\{ \begin{array}{l} \text{ある } a \in X \text{ とある } \varepsilon > 0 \text{ が存在して,} \\ \text{任意の } \delta > 0 \text{ に対して, ある } x \in X \text{ で } d_X(x, a) < \delta \text{ かつ } d_Y(f(x), f(a)) \geq \varepsilon \\ \text{となるものが存在する.} \end{array} \right.$

$\stackrel{\text{def.}}{\Leftrightarrow} \left\{ \begin{array}{l} \text{ある } a \in X \text{ と } f(a) \text{ のある } \varepsilon \text{ 近傍 } U_\varepsilon^Y(f(a)) \text{ が存在して,} \\ \text{a の任意の } \delta \text{ 近傍 } U_\delta^X(a) \text{ について, } f(U_\delta^X(a)) \not\subset U_\varepsilon^Y(f(a)). \\ (\delta > 0) \end{array} \right.$

# 問題

以上で述べたことをさらに整理したり、詳しくしたりして、

ノートにまとめよ。 そのときに、すべての説明に図を追加せよ。 □

図を描くことは非常に大事です。

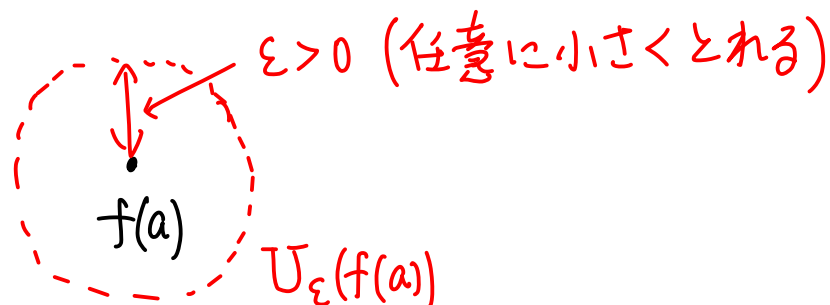
## 例

$f$  の連続性

①

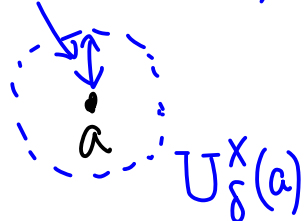
$a$

$f$

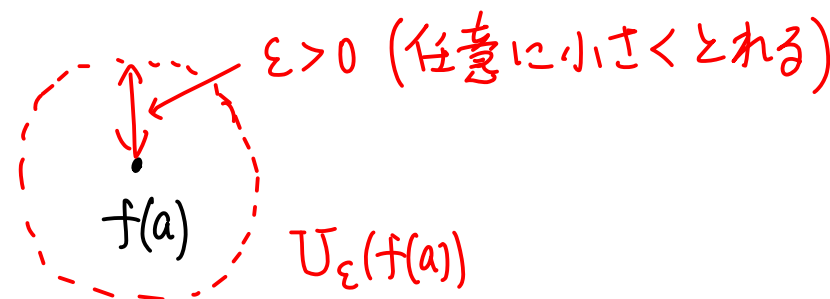


②

$\delta > 0$  (うまくとる)

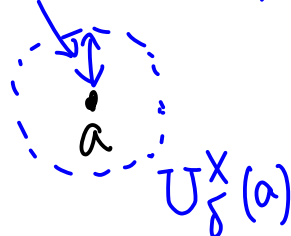


$f$



③

$\delta > 0$  (うまくとる)



$f$

